

京都市

農林業だより



発行 京都市
産業観光局
農林振興室
農業計画課



〒604-8571
京都市中京区寺町通御池上る
上本能寺前町 488 番地
電話 (075)222-3351

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sankan/soshiki/7-4-0-0-0.html>

市と京都大学が連携して開発した新しい野菜

新京野菜

「京ラフラン」 本格始動!

京都市では、京都大学と連携して開発した新しい野菜を「新京野菜」として生産振興、消費拡大を図っています。

今春から、「だいこん×キャベツ」というまったく異なる属間から生まれた新しい野菜を「京ラフラン」と名付け、本格的に出荷されることとなりました。

京ラフランは、11月に定植し3月末から収穫できる春の葉菜です。属間雑種のため病気に強く、農薬も少なく済みます。可食部分は茎と葉で、湯がいて食べると、茎はアスパラガス、葉は花菜に近い食味があります。

栄養価は、ほうれんそうと比べてカルシウムが1.7倍、ビタミンB1が1.6倍、

ビタミンB6が1.8倍、総ビタミンCが2.9倍も含まれています。

試験的に栽培された生産者からは、「手間がかからず栽培が楽」や「(直売所で)珍しい品揃えとして評判だった」などの声がありました。

現在、市内で約20戸が栽培中で、3月末頃から5月頃まで直売所やスーパーの店頭に並びます。

栽培を希望される農家の方は各農業指導所、京北農林事務所へ御相談ください。

なんで「京ラフラン」なの?

だいこんの学名「ラファナス・サティヴァス」の「ラフ」と、キャベツの和名「甘藍(かんらん)」の「らん」から「京ラフラン」と名づけました。



→現在栽培中の京ラフラン



←収穫し出荷します 茎長20〜30cmを

その他の新京野菜たち

●京てまり

直径5cm前後の小型トマトで、糖度が高く酸味が少ない品種です。受粉しなくても実が成る特徴を持っています。



●京あかね

形はやや縦長で、京てまりに比べ味が濃く、しつかりとした肉質が特徴です。



●京唐菜(きょうとうさい)

葉と茎を食べるとうがらしです。夏場のほうれんそうに比べビタミンCやカルシウムが豊富に含まれており、夏場に不足しがちな葉物野菜として利用できます。



GAP(ギャップ)手法実践のすすめ

「安全・安心な農産物生産のために」

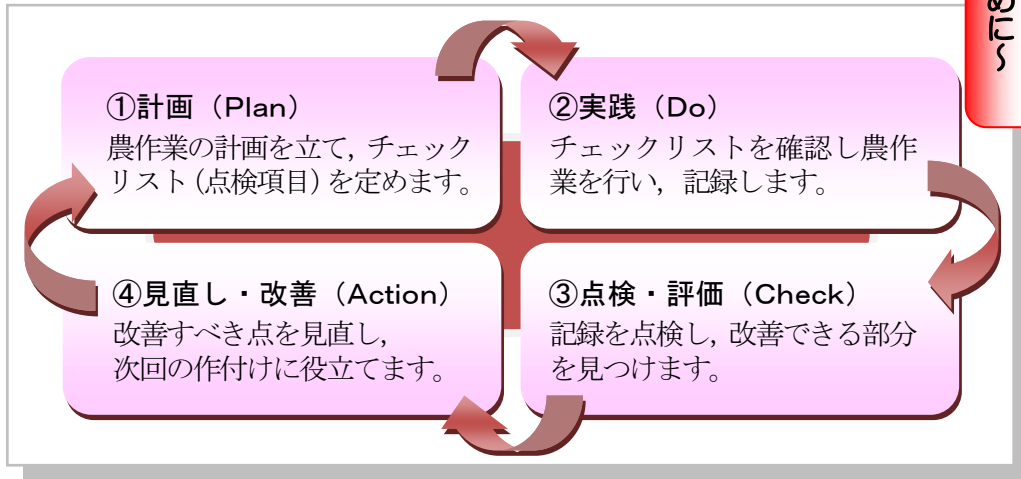
消費者の間で「食」の安心・安全に対する関心が高まっている今、農家の皆さんが普段から行っている農業生産の過程を文書化し、流通関係者や消費者にわかりやすく安心・安全な農産物を届けるため、GAPに取り組んでみませんか。

(1) GAPとは

GAPとはGood Agricultural Practiceの頭文字を取ったもので、「農業生産工程管理」などと訳されています。適正な農業生産工程をマニュアル化し、作業の確認と記録を行いながら、しっかりと生産管理を実践していく取組のことです。

(2) GAPの導入手順とは

まず生産する作物、GAPに取り組む目的、栽培条件などに応じて、問題（農薬の残留、汚染・混入、環境への影響など）が発生しやすいところを分析・把握します。そのうえで、右下図のような一連の作業を**繰り返し行う**ことで、生産工程全体の管理を行います。



(3) GAPのメリット

GAPを導入すると、『問題点を意識的にチェックし、安全な農産物を求める消費者の声に応えること

京の旬野菜 残留農薬低減 GAP チェック項目(抜粋)

工程	チェック項目
病害虫発生 の予防	病害虫・雑草が発生しにくい栽培環境づくりを行いましたか
	効率的・効果的な防除計画を立てましたか
散布準備	使用予定農薬についての最新の農薬情報を確認しましたか
	農薬のラベルを確認しましたか
	農薬散布情報を隣接農家に連絡しましたか(散布日, 時間, 散布農薬名)
散布	風の弱い時に散布しましたか
	風向きは大丈夫でしたか
	作物の近くから散布しましたか
	ほ場の端では、ほ場の内側に向けて散布しましたか
	飛散しにくいノズルを使用しましたか
	防除機の散布圧を上げ過ぎてなかったですか
散布 終了後	散布量は適正でしたか
	タンク、ホースなど散布器具の洗浄を確認しましたか
	農薬を触れた手で収穫物などに触れませんでしたか
農薬の 取扱い	使用した農薬の正確な記帳をしましたか
	農薬は専用保管庫に保管し、農薬の取扱いは収穫・調整する場所から離れた所で行いましたか
その他	飛散しにくい農薬を使用しましたか
	飛散防止ネットや緩衝作物(ソルゴーなど)を設置しましたか
	近接農地にある作物と共通の登録のある農薬を選びましたか

ができる。』『記録をもとに、農作業の改善につなげることににより、コスト低減や品質向上につながる。』等のメリットがあります。また、農産物からサンプルを抽出し、成分検査を委託実施する「結果管理」に比べ、GAPは栽培工程ごとにとどのような管理をしたか記録する「工程管理」を生産者自らが実施するため、取引先への説明や危害発生時の原因究明に役立ち、コスト

面でも有利となります。
(4) 京の旬野菜GAP
本市では、残留農薬のチェックができる「京の旬野菜 残留農薬低減GAP」、施肥過多による環境汚染を改善するための「京の旬野菜環境(土壌窒素) 負荷低減GAP」などを策定し、農業指導所・農林事務所にて配布しておりますので、皆さまの工程管理の一環として是非御活用ください。

力を合わせて！～農林業グループの紹介～

産大臣賞受賞！

上賀茂特産野菜研究会



上賀茂特産野菜研究会は、2月17日に東京で開催された全国地産地消推進フォーラム2010において、地域振興部門で農林水産大臣賞を受賞されました。

当研究会は、本場の賀茂なすを守るとともに、上賀茂神社内での賀茂なすの採種・葵祭における奉納などの神社と連携した活動や、賀茂なすに関する情報発信を通じて、京野菜の振興・販売促進に貢献しています。

これらの活動に加えて、会員の約6割が20～30歳代と後継者が育成され、賀茂なすの生産拡大と積極的な販促活動が展開されている点や、さらに当研究会員を始め、北区で取り組まれている振売りや直売所での地産地消活動が評価され、今回の受賞に至りました。

こうした若い世代の勢いを生かし、今後のさらなる発展を願っております。

西部アグリ・マネージャークラブ

西部アグリ・マネージャークラブは、西部農業指導所管内の担い手農家グループです。現在の会員数は15名。会員同士の技術研鑽のため、ほ場の互見会や交流会や研修会、会報誌の発行等を行っています。

2月10日には、精華町にある京都府生物資源研究センターと木津市にある直売所「花野果市」はなやかいち「にぎわい市場」の視察研修を行いました。

研究センターでは、研究員からウイルス病に対するワクチンの有用性についての話をお聞きし、府民が利用できる実験室などの施設の見学をしました。

その後、「花野果市」へ。年間10万人が来場し、売上が1億2千万円を超えるこの市場で、野菜の荷姿や値段、果物や花、乾物の商品も並ぶ品揃えの多さなど、いいところを吸収しようと、真剣に見学されていました。もう一つの「にぎわい市場」では、納品

にきた地元の農家の方から直接お話を伺うなど、積極的に情報収集を行われていました。

いつも研究熱心で、頼もしい担い手の皆さまです。



林業の面白さを広めたい！

京都市林業研究会

木材価格の低迷、

森林施業への意欲低下や後継者不足といった林業を取り巻く問題を解決するため、京都市林業研究会では、日々林業経営の合理化の研究や森林・林業の普及啓発活動を行っています。



今年度からは、これまでにない新たな取組として、京都市が取り組んでいる合併記念の森創設事業の委託を受け、京北市有林内において、観光の名所となり、森林学習が行える森林の整備や間伐材を利用した総合管理用施設の建築を行っています。昨年の十月、本研究会の指導の下、京都府立北桑田高等学校と共同で間伐作業を実施し、実際に生徒に高性能機械と小型重機に乘車してもらいました。生徒たちは初めての機械操作でしたが、時間とおもしろさを知ってもらえるよい機会となりました。今後も林業をより多く知ってもらえるよう多彩な活動を実施していく予定です。

認定農業者紹介8 上京区朱雀野 佐伯昌和さん

『洛中に農家あり!!』

北野天満宮のほど近く、梅の香りが漂ってきそうな場所に趣のあるご自宅兼直売所を構えられている佐伯さん御一家。丹精込めて育てられた野菜を、今日もお馴染みさんが買っていきます。



中京区の畑にて

大学卒業後、有機農業を志向して就農されましたが、当初はなかなかうまくいかず、同じ志の仲間と研究を重ねたり、化学肥料や農薬が一般的になる前の農業を知る祖父の世代から技術を学びながら、自身が目指す農法を実践できるようになるまで約20年の歳月が掛かりました。そして今も、病害虫や雑草との戦いに創意工夫をされています。

「都市農業・京野菜・直売・有機農業という4つのコラボレーションが私の農業」と話される佐伯さん。「旬刊はたけ情報」という壁新聞

を直売所に掲示し、畑を見ることのない消費者や取引先に畑の情報を伝えることも忘れません。また、3年前からは、個人での作物生産だけでなく、都市に安らぎを与えるなど多面的機能をもち都市農業の重要性を広くアピールするため、支部を挙げての即売会を開始され、毎年あつという間に完売する盛況ぶりを見せています。

そして、小学校で農業や伝統野菜に関する学習の講師を永年務められ、農業への親しみを持つ子どもを増やしておられるほか、北野天満宮・ずいき祭りの「ずいき神輿」の保存活動にも取り組まれておられます。佐伯さんのお宅では、3年前に息子さんも就農され、現在親子三代で農業に励まれています。「都市部に田畑があることが今後ますます重要になってくる。弱気にならずに、都市部の農地を次世代に大切に残していつて欲しい。」と強い思いを語られました。

皆さんも認定農業者になりませんか。御相談は、各農業指導所・京北農林事務所まで。

市民も地元も楽しんだ

雪の森都市フェスティバル

去る1月31日(日)「雪の森都市フェスティバル」を左京区花脊の山村都市交流の森を会場に開催しました。この催しは、左京区花脊峠以北の山間地域(久多・広河原・花脊・別所・百井地域、以下「森都市地域」)の冬の魅力を広く市民に知ってもらおうと、地域の関係団体と京都市が開催したものです。

例年雪深いこともあって国際ルールによる本格的な雪合戦など、雪上運動会を計画していましたが、今年は雪が少なく、「どんど」の再現やお餅つき、たこ作り、羽子板・こま遊び、わら細工体験、木工教室など、地元の伝統行事や昔ながらの冬の遊びを体験してもらうイベントに急ぎよ変更しての実施となりました。



市民も参加した「どんど」の組立て

250人の参加者たちは、「どんど」の火で焼いたみかんやさつまいもをほおばったり、少しですが雪と戯れ、普段都市部では出来ない体験をしたり、地域色溢れる模擬店の温かい味に舌鼓を打っておられました。地元での伝統行事や昔ながらの遊び、森都市地域の味が参加者には新鮮だったようで、「雪がなくて残念だったけどとても楽しかった。」と好評で、市民・地元住民ともに大いに楽しんだイベントとなりました。

豊かな自然と歴史・文化が溶け合った森都市地域も、農林業の衰退や高齢化などで地域活力の維持が困難になりつつあります。このような催しを通じて、都市と農山村地域の関係が築かれ、この地域の活性化などに関心を持っていただければと期待しています。